

# 石狩湾新港港湾計画の改訂について

石狩湾新港管理組合 振興部  
計画施設グループ

## 1. 石狩湾新港の概要

石狩湾新港は、北海道の日本海側に面する石狩湾沿岸のほぼ中央に位置し、本道の政治経済の中心である札幌圏に位置する港湾(札幌市中心部から約15km、車で30分)で、道央圏における物資需要の増大に対処するとともに、日本海沿岸地域及び北方圏諸国等との経済交流の拠点としての役割を担うため、整備を進めてきました。

整備の着手は昭和48年で、昭和57年に東埠頭の一部を供用開始して以降、花畔、中央、樽川各埠頭の供用を順次開始し、平成18年には、国際物流の核となる-14m岸壁を有する西埠頭の供用を開始しました。

また、平成15年には「総合静脈物流拠点港(リサイクルポート)」に指定、平成23年には「LNG機能に係る日本海側拠点港」に選定されています。

## 2. 本港の現状と課題

本港を取り巻く動向として、①対岸諸国の著しい経済発展により、農水産品、工業品等の輸送需要が増加、②LNG火力発電所新設に伴い、LNG輸入量が増加、③バイオマス発電等の新エネルギー産業の立地、④北海道新幹線整備等の建設需要の増加が見込まれる、⑤経済成長が著しいベトナムなど東南アジアとの物流の増加、などがある一方、コンテナの急増に伴うヤード狭隘化による非効率な横持ちや他岸壁の荷役への支障、リサイクル貨物の荷捌き地が分散していること、船舶の大型化に対応した岸壁機能の不足、バイオマス発電燃料等の新たなニーズに対応した施設の不足などの課題が山積しています。

## 3. 計画改訂の概要

新たな港湾計画については、コンテナ取扱機能の強化、バルク貨物船の大型化などに対応した国際海上及び国内海上輸送機能の強化、取扱貨物の集約化による埠頭機能の再編などを目的に、平成27年3月に開催した地方港湾審議会及び6月に開催された国の交通政策審議会港湾分科会の審議を経て、7月6日に改訂を行いました。

今回の改訂では、目標年次を平成40年代前半とし、



取扱貨物量として外貨900万トン、内貨490万トン、合計1,390万トンとしており、また、新たな施設計画として、次の3つを位置付けています。

### (1)花畔地区におけるコンテナヤードの再編・拡張計画

本港の外貨定期コンテナ航路は、現在、韓国・中国航路が週2便就航していますが、近年のコンテナ取扱の増加により、ヤードが不足している状況にあることから、花畔地区において、コンテナヤードの再編・拡張を計画しました。

### (2)西地区における岸壁計画

現在、本港背後圏の企業において、新たにバイオマス発電施設が計画されており、発電用資材としてパームヤシ殻が、東南アジアから大型貨物船により輸入されることになり、また、本港は札幌圏の石灰石の移入基地となっており、大型の石灰石専用船の入港要請を受けていることなどから、西地区において、船舶大型化への対応及び新たなバルク貨物に対応するため、新たに-12m岸壁等を計画しました。

### (3)東地区における岸壁・埠頭用地計画

リサイクルポート指定以降、石狩湾新港地域でリサイクル関連企業の立地が増加しており、また、リサイクル貨物の荷役が各埠頭に分散した状況にあることから、東地区において、金属くずを始めとするリサイクル貨物を東埠頭へ集約を図るため、新たに-12m岸壁及び埠頭用地等を計画しました。